

## 会 議 録

会議の名称	平成28年度第1回戸田市児童福祉審議会
開催日時	平成28年9月30日（金）午前10時00分～午前11時35分
開催場所	大会議室A
会長等氏名	会長 中村 信成
出席者氏名 （委員）	米倉 裕子 永塚 博之 武内 利行 芝崎 春樹 日山 秀利 中野 康子 平野 修司 山下 理恵子 山口 百百 根本 浩伸
欠席者氏名 （委員）	飯野 悦子
事務局	三木部長 黒澤次長 櫻井課長 角田課長 矢ヶ崎課長 鈴木主幹 福田主幹 大原副主幹 富田副主幹 渡邊副主幹 金子主事 井上主事 野本主事
議 題	（1）戸田市管内保育施設の利用定員の設定・変更について （2）戸田市子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について （3）待機児童緊急対策室の設置及び状況報告について （4）学童保育室の状況報告について （5）その他
会議結果	1 議題1について説明、意見聴取した。 2 議題2について説明、意見聴取した。 3 議題3について説明、意見聴取した。 4 議題4について説明、意見聴取した。
会議経過	別添のとおり
会議資料	1 子ども・子育て支援新制度利用定員一覧（案）（平成29年4月1日予定） 2 戸田市子ども・子育て支援事業計画進捗状況（平成27年度） 3 待機児童緊急対策室等の設置及び状況報告 4 平成27年度 戸田市の学童保育の状況報告
議事録確定	平成28年9月30日 会長 中村 信成

## 議事要旨

発言者	発言要旨
こども青少年部長	<p><b>【 開会 】</b></p> <p>委員の皆様、本日は、公私共々お忙しい中、ご出席くださいます。誠にありがとうございます。また、日頃より本市の子育て支援事業にご理解、ご協力を賜り厚く御礼申し上げます。併せて、明日、10月1日に、昭和41年に戸田市が市制施行により誕生してから50年となります。本年度は1年間かけまして10月1日を中心として、様々な記念事業が行われております。関係の皆さま方にはいろいろとご協力いただきまして御礼申し上げます。昭和41年当時は、人口が5万5千人あまりであったものが、埼京線の開通などにより都市化が進み、現在は13万6千人を超えており、若い世代の転入も多く県内一若い平均年齢が40.1歳という街となっております。その分、人口の増加と保育園への入所を希望する方が増えたことにより保育園の待機児童数が、4月1日現在、県内で1番多い106名となってしまいました。そのため、皆さま方への報告が遅くなり申し訳ありませんでしたが、本市では、6月1日に待機児童緊急対策本部と対策室を設置し、待機児童解消のためにあらゆる方向性による対策を検討、実施をしているところでございます。のちほど事務局より、経過などにつき説明させていただきますので、よろしく願いいたします。</p> <p>また、本日ご出席いただいております皆さま方におかれましても日頃より待機児童解消また保育の充実についてご協力をいただいておりますことに感謝申し上げます。</p> <p>さて、本日の議題につきましては、待機児童対策の報告と「戸田市子ども・子育て支援事業計画」の進捗報告、そして、来年度の保育園の利用定員などについて4点ございます。平成27年度からスタートしました、子ども・子育て支援新制度も今年、2年目を迎えており、戸田市におきましても総合的な子育て支援の事業展開を実施しているところですが、本日も、さまざまなご立場からの貴重なご意見をいただきたくお願い申し上げます。簡単ではございますが、私からの挨拶とさせていただきます。本日もどうぞよろしく願いいたします。</p>
会長	<p><b>【 会長あいさつ 】</b></p> <p>会長の中村です。よろしく願いいたします。</p> <p>委員の皆様方におかれましては、貴重なお時間いただきまして、お集まりいただき、ありがとうございます。今、三木部長からお話のありましたとおりの多くの議題がございます。それぞれの委員さんのお立場から貴重なご意見をお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。</p>

事務局	<p>&lt;傍聴人の入場&gt;</p> <p>【 議題 】</p> <p>議題（１）戸田市管内保育施設の利用定員の設定・変更について（会議資料１をもとに説明）</p>
事務局	<p>【 質疑応答及び意見聴取 】</p> <p>&lt;委員発言無し&gt;</p>
事務局	<p>議題（２）戸田市子ども・子育て支援事業計画の進捗状況について（会議資料２をもとに説明）</p>
委員	<p>【 質疑応答及び意見聴取 】</p> <p>（９）延長保育事業や（１０）病児・病後児保育事業において、量の見込み、利用量、確保提供量に大きく乖離していますが、何か費用負担などの理由がありますか。</p>
事務局	<p>延長保育事業の確保提供量については、各園で延長保育者の定員を設定していませんので、在園児童全ての人数を確保提供量としております。実際の利用量について、延長保育は、基本１８時以降の保育時に該当となりますので、それだけの利用がないことから、乖離が生じております。病児・病後児保育事業においては、３施設、各施設定員４名を根拠として確保提供量としております。ただ、実際には毎日の利用には変動があるため、差が生じております。</p>
委員	<p>保護者の費用負担は、どうでしょうか。</p>
事務局	<p>両事業とも、保護者の方に一部利用負担をお願いしております。延長保育については、１か月２，５００円又は４，０００円、病児保育については、１日あたり２，０００円の利用者負担となっております。</p>
事務局	<p>議題（３）待機児童緊急対策室の設置及び状況報告について（会議資料３をもとに説明）</p>
委員	<p>【 質疑応答及び意見聴取 】</p> <p>保育単価について、説明いただきたい。また、戸田市が 6/100、蕨市が 15/100 の地域区分につき、どの程度差が生じているか、金額を知りたい。</p>
事務局	<p>資料２ページをご覧ください。保育単価は、全国統一で、歳児ごとにどれ位保育費用がかかるか人件費を含め、国で定めており、地域に</p>

	<p>応じてパーセンテージによる区分を設けております。これは、公務員の給与に地域手当というものがあまして、地域の平均地場賃金を反映した上で設定されており、保育施設にも採用されているものとなります。モデルとして、90人定員の認可保育所で戸田市と蕨市で年間700万円程度の差が生じる状況です。保育施設には、この保育単価を基準に利用児童数に応じて施設に運営費としてお支払いをしております。</p>
委員	<p>保育単価は、自治体が施設に支払うものということによろしいですか。</p>
事務局	<p>国、県、市の委託費用を併せて市から施設に運営費としてお支払いしております。</p>
委員	<p>その差は、厳しいですね。</p>
事務局	<p>その不均衡について、新規の事業者も参入しにくい状況の一因となっているため、県にその改善を要求し、国にも要求する予定です。また、市として何ができるかを検討しているところです。</p>
委員	<p>地域区分の決定権は、県ですか。</p>
事務局	<p>国になります。</p>
事務局	<p>補足になりますが、さいたま市、蕨市と運営費において差が生じていることから、その差を埋めるべく、市単独補助にて、全額を埋めるまでには、いかない額となりますが、補助を行っているため、現実には、700万円の差額よりは小さな差額に留まっております。</p>
委員	<p>戸田市が6/100という数字は、蕨市と比較すると納得できない部分がありますが、その半分でも差が縮まればよいかと思えますけど。</p>
委員	<p>待機児童数と保留児童数の説明をもう一度お願いいたします。</p>
事務局	<p>1ページ下段になりますが、4月入所につき、保育所希望のうち、入所の保留、入れなかった方を保留者と呼んでおります。この中から育児休業を延長されたり、家庭保育室へ入室された方、4月現在求職活動をされていない方などを保留児童数から差し引くことが出来る旨、国が一定の基準を示しており、戸田市においては、340人の保留者数、106人の待機児童数という数字が算出されたところです。</p>

会長	待機児童数は、毎月算出されるものでしょうか。
事務局	年間で4月1日現在と10月1日現在の年2回公表されるものとなります。
委員	6ページに記載の保育士確保策ですが、保育士の給料が安い現状があることから、保育の魅力向上といった抽象的なことではなく、戸田市内保育所は給料が高いというイメージになれば、人も集まり、質も上がっていくのかなと思います。
事務局	保育士確保策については、短期的な視点と長期的な視点があると思います。今後短期的な支援として、金銭的な支援も必要であると思いますが、本質的な視点として、戸田市で働きたいと思っていただけるような中長期的な観点も大切と考えて、それを同時に進めていきたいと考えております。については、金銭的な支援も当然大切ですので、どのようなものが出来るか待機児童緊急対策アクションプランの中で示していきたいと考えております。
委員	保留児童数と待機児童数につき、戸田市と比較すると、川口市やさいたま市では、その差が大きいのは、育児休業を延長される方が多いとかの理由になりますか。何かその理由を把握されていますか。
事務局	他市の事情になりますので、分かりかねる部分が多いです。実態が見えにくいという意見もあり、新聞報道によると、基準見直しの動きもあるようですが、現時点では、国から基準を統一するといった通知等は来ておりません。
委員	実数が見えてこないということですよ。
事務局	議題（4）学童保育室の状況報告について (会議資料4をもとに説明)
委員	<p>【 質疑応答及び意見聴取 】</p> <p>退室理由としては、保護者の多様なニーズということもあるのですが、多様なお子さんがいるということで、指導員との関係が上手くいかず退室し、家で留守番しているという例もあると聞いております。学童保育室の指導員の質向上のための研修が実施されるとよいのかなと思います。また、民間学童保育室を誘致していただき、数を確保するというのもありがたいのですが、現在民間学童、塾の類など様々な</p>

事務局	<p>運営形態があり、以前は、公立のみでしたので、連携しやすかった面があったのですが、現在では、様々な施設と連携を取ることが難しく、負担となってきた現状があります。民間内において、ある程度統一していただくと連携が取りやすくなるのかなと思います。</p> <p>退室理由としては、家庭の都合や児童が一人で留守番出来るようになったとか、様々ですが、実情としては、友達が退室したからということで、引きずられて辞めるといった理由もあるかと思われます。</p> <p>指導員への研修の指導、充実という面では、これまでも各種研修を受けているところですが、国の方でも放課後児童支援員という認定資格の制度をつくり、県主催の研修を受ける形となっております。</p> <p>昨今、発達の関係や家庭環境の面から指導が難しいケースも多くなってきており、指導がなかなかうまく行き届かない、また指導する方の対応の部分も上げていかなければいけない、という課題と受け止めており、様々な研修等への参加により対応していきたいと考えております。</p> <p>また、民間学童保育室の増加につきましては、その事業者が民間の塾なのか、学童なのか、健全な運営ができる事業者かどうか、各学校にて判断が付きにくい状況があり、こちらから放課後健全育成事業の届出をしている適切な事業者といった情報の周知が足りない面があったかと思えます。市としましても補助金の支出をしていることから、適宜注意、指導等を図っていきたく思います。これ以外にも、民間の塾によるお迎えなど、多数増えてきており、学校においても区別し難い状況があると聞いています。</p> <p>民間学童室側からも公立学校との連携を密にしていきたいとの意思もございますので、対応が難しい児童への対応方法も上手に連携し、ご相談させていただきながら進めていきたいと考えております。</p>
委員	<p>実情として、これ以外にもこの会議とは、関係ないかもしれませんが、障害のある児童の放課後デイケアのケースも多くあり、お迎えの時間が学校の終わりの時間とうまく合わなかったりと、その間の時間帯、だれがどこで児童を見守るか、といった問題など、細かい話が多々ありますので、統一的な対応が取れば良いなと思っています。学校としても努力して連携していきたいと思えます。</p>
委員	<p>新曽小学校の学童保育室につき、平成28年度の入室数と定員が第3は定員超過しており、第1と第2は空きがあるようですが、何か理由はありますか</p>
事務局	<p>新曽小学校の第1と第2は、1、2年生を中心に入室しており、第</p>

事務局	<p>3学童保育室は、主に3年生以上の入室にて区分しております。定員38人を超過している状況ですが、面積要件を満たした中で受け入れを円滑的に行っているところです。</p>
事務局	<p>議題（5）その他</p> <p>子育て・家族支援者養成講座、とだ子ども・子育てフェスタ、児童虐待防止推進月間について報告。</p> <p>本日いただいたご意見等を参考に取りまとめていきたいと思えます。なお、会議録及び計画の進捗状況につきましては、後日、市ホームページにて公開させていただきます。以上でございます。</p>
会長職務代理	<p>【 閉会 】</p> <p>本日は、お忙しい中お集まりいただきありがとうございます。これからも戸田市の子ども子育て支援につきましては、委員の皆様のご協力を賜りながら進めてまいりたいと思えますので、ご協力いただけますようお願いいたします。本日は、どうもありがとうございました。</p>
事務局	<p>以上をもちまして、平成28年度第1回戸田市児童福祉審議会を終了いたします。</p> <p>本日は、長時間にわたり、ありがとうございました。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>